

平成23年度総合的な学習の時間にかかわる現状と課題

部長 渡邊寿敏

1 総合的な学習の時間の動向

新学習指導要領の完全実施の年ということから、各郡市においては、これまでの内容の見直しや改善を大きな課題として取り組んできた様子が伺われる。

(1) 地域の特色ある「ひと・もの・こと」から精選を図った取組

身近な地域の自然・風土や伝統文化、産業などを題材として取り上げることによって、深くかかわり追究していく態度の育成やふるさとへの愛着の育成を図る取組が郡市単位で実践されている。

- ・佐渡市では、「佐渡の自然、文化、歴史を学ぶことで、郷土を愛し、夢と誇りをもつ子どもの育成」をめざした「佐渡学」を推進している。23年度、沢根小学校を会場に「海のよさを伝えよう」を共通課題として地域素材の開発と外部講師の活用を研究してきた。
- ・その他に、村上市は「郷育プログラム」、新発田市は「食とみどりの新発田っ子プラン」、など共通テーマで取り組んでいる郡市がある。

(2) 「探究的な学習」「協同的な学習」をテーマに改善を図った取組

新学習指導要領の改訂で強調された「探究」と「協同」、あるいは「主体的な学び」や「言語活動との関連」などに焦点を当てて、学校間で共通理解を図ったり、指導方法や具体的な単元開発を行ったりして、郡市単位で成果を蓄積している。

- ・上越市では、「探究的な学習指導」と「体験活動と言語活動の充実」を2本柱に各校で実践し秋に部員全員で成果を発表し合っている。23年度は、小中各1校（大和小・柿崎中）が国語の単元と関連させて表現力を高めようとする試みなどが発表された。
- ・その他に、新潟市や燕市・西蒲原郡では、改訂の要点を共通理解するための講演会を開催し、それを検証するための研究授業を行っている。

2 総合的な学習の時間の課題

縮減された時数内に、いかに「探究」としての学びの質を高めていくかが今年度の課題だったのではないだろうか。そのために、これまで蓄積されてきた地域素材や人材などを生かしながら、新しい視点で実践が図られてきたと感じる。

今後は、「探究」と「協同」などのキーワードに沿って、どのような子どもを求めるのか、評価規準と評価方法を明確にしていく必要がある。また、小・中一貫教育の動きから、小・中9年間を見通した学びのあり方も課題である。